

平成28年度 第2回 山梨県立美術館協議会 会議結果記録

日 時： 平成29年2月17日（金） 午後2時～3時20分

場 所： 県立美術館講堂

参加者：

委員 大堀 卓、塩島明美、向山富士雄、鶴田一杏、古屋知子、野口英一、
笹本禮子、日比野理津子、渡辺弥生、野中るみ子

県教育委員会 柳原学術文化財課総括課長補佐、原学術文化財課主事

県立美術館 白石館長、上島副館長、大関総務課長、井澤学芸課長
望月総務担当リーダー、平林学芸担当リーダー、高野普及担当リー
ダー、中島普及担当副主幹・教育主事

指定管理者 岩野SPSやまなし支配人、金原SPSやまなし副支配人

議事

- 1 平成28年度事業実績について
- 2 平成29年度事業計画について
- 3 その他

司会 上島副館長

議事録

会長挨拶

館長挨拶

事務局職員紹介

議事（議長は規定により会長が務めた）

事務局から会議資料により、議事1～2を説明

会長（議長）

ただいま、事務局から、議事の（1）、（2）について説明がありました。質問、意見などありましたらお願いします。

会長（議長）

無いようですので、議事の（3）その他について事務局から何かあるでしょうか。

事務局

特にありません。

会長（議長）

では、議事について承認されたものとしてよろしいでしょうか。よろしければ、拍手でご承認をお願いします。

（出席委員全員が拍手）

会長（議長）

委員の皆様、この際、何かご質問、ご意見がありましたらお願いします。

B委員

私は、社会教育委員の代表の立場で出席していますが、最近の社会教育というのは、地域作りと人作りがテーマになっています。先ほど指定管理者から、賑わいの創出とお話がありました、具体的にどのようなことを考えていますか。市町村の中でも地域作りや人作りの参考にしたいと思います。

また最近、伝統芸術や伝統芸能も地域作りの観点からクローズアップされていますが、そのあたりの関連についてもお聞かせください。

事務局

まず、賑わいの創出ですが、美術館、お隣の文学館も敷居が高いと言われていています。一步でも近づいていただきたいという思いから、まずは知っていただくことが重要と思います。地域創生は、まだ進んではいませんが、インバウンドの分野では観光推進機構との連携が始まっています。また山梨大学とも連携して、地域活性化の一翼を担えればと考えています。

会長（議長）

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

N委員

学校現場を代表する立場として、感想と質問を述べます。教育普及で様々なプログラムを用意していただいていることはとてもありがたいことです。子供たちはいろいろなことに興味を持ちますが、美術館というくくりの中で興味を持つ機会はなかなか無い状況です。これからもこのような豊富な教育普及プログラムの提供をお願いします。

教師のための鑑賞研究会は私も知ってはいましたが、なかなか参加の機会がありませんでした。中学、高校の専門の教師は参加も多いのですが、小学校の先生の場合

合はどのようなのでしょうか。年間のスケジュール、実施の時間帯、参加者の反応など教えてください。

事務局

教師のための鑑賞研究会ですが、特別展とリンクして実施と夏休みに2回の計6回実施しています。時間帯は出張しやすいことを考慮し、午後4時から閉館の5時までの短い時間ですが展開しています。

参加する先生の本数は小学校、高校、中学校の順で、特別展の入館者数に比例する傾向がありますが、本年度は約100名の参加がありました。昨年度は約120名です。図工・美術の教科に限らず他の分野の先生にも参加してもらっています。本年度の例では、塩山高校の家庭科の先生が、生徒を引率して来館した際にとっても感動したということで、教師のための鑑賞研究会に同僚の先生を誘い3人で参加してくれました。先生方は忙しくてなかなか参加できない状況がありますが、義務教育課、高校教育課にご協力いただき両課長から各学校に参加を促す働きかけをしていただき、なるべく先生の負担にならないよう博学連携ができるよう心がけています。

ついでにお話ししたいのですが、平成28年度は年度当初にアートカードを作りまして、使い方の研修をしたところ、美術以外の教科で、例えば国語の授業に使っていただいたり、小学校の先生が学級作りの日課して行っているゲームの授業に使ってくれた例がありました。アートカードはまだまだ、いろいろ可能性画のある教材だと思いました。

会長（議長）

その他に意見があるでしょうか。

C委員

学芸課長に伺います。資料の6頁にある、新収蔵品展に出展される作品の、寄贈、寄託、購入の別について教えてください。

また、美術資料取得基金による作品も購入状況も教えてください。

もう一点、私は南アルプス市立美術館に勤務していますが、観光客特に外国人の来館について、工夫していることがあれば、参考としたいので教えてください。

事務局

櫻井孝美氏の作品2点は、作家からの寄贈です。高野真美氏の作品2点はご遺族からの寄贈です。五味祥子氏、堀内洋子氏、松田百合子氏はいずれも昨年開催した特別展「美し、やまなし、パワー！ 山梨の女性アーティストたち」に出品していただいた作家で、それぞれ作家からの寄贈です。吉田美統氏は人間国宝ですが、作品を寄贈

いただきました。秋山令一氏、山口晃氏の作品は寄託です。

その他に、外務省の管轄であります国際交流基金が日本の美術を世界に紹介するために収集し50カ国ほどで展示した作品68点の作品群を寄託いただくこととなりました。この中には山梨県ゆかりの作家も含まれています。今回の新収蔵品展では、この中から8点のみを展示することとしています。本年度の新収蔵品には購入したものはありません。

美術資料取得基金は、美術資料の購入ためのものですが、現在は基金による購入は行っておらず、ほぼ凍結のような状況です。

事務局

当館への外国人の来館者数ですが、きちんと調査したのではなく、受付スタッフが目視や話している言語などで判断ですが、月に約30人ほどです。

同じ県内でも富士北麓地域ではアジアからの観光客が多いと聞いていますが。富士山をみてそのまま帰ってしまうという印象です。ですからインバウンド対応として何をしているのか、どのように考えているのかお答えができないのが正直なところです。

観光客誘致の新たな取り組みとして、4月から旅行会社への営業の強化を計画しています。つまりツアーの中に、当館を入れていただくということですが、長野、山梨で観光した人が当館に来るということは十分考えられます。

それと、ミレーの展示は特別展に匹敵するものと言えますので、常に特別展を開催しているということ、県外特に首都圏にアピールしていきたいと考えています。先ほど説明したキャッチコピーがうまく使えればとも思います。

会長（議長）

ありがとうございました。その他に意見があるでしょうか。

M委員

キャッチコピーはどのようなものになるのでしょうか。よくある「週末は～」というような感じでしょうか。また作成は専門家に依頼しているのでしょうか。

事務局

内容については、現在企画立案中です。形式としてはおっしゃった様な感じですが。制作は専門のコピーライターに依頼しています。

M委員

もう一点、先ほど話のあったアートカードはどのようなものなのでしょうか。できれば実物を見せていただきたいのですが。

会長（議長）

事務局のほうで実物をお持ちいただけるとのことですので、その間に他に意見があるでしょうか。

L委員

先ほどから外国人に来ていただくという話がありますが、山梨にも外国人の方はいらっしゃると思います。日本人にとってはあたりまえのことが、外国人には分からないことも多いと思いますので、まず県在住の外国の方に、来館していただく機会を設けて感想を聞いてみる、うまくすればネットでそれを広げてくれるなどの効果も期待できると思います。

もう一点ですが、当館には障害者向けの「手で見るミレー」がありますが、障害者だけでなく、多くの方、特に子供が興味を持って、触っています。手に触れて感じることは年代に関わらず多くのことを感じ取れると思いますので、美術に関することで触って感じる教材を増やしていただきたいと思います。

会長（議長）

では、アートカードの説明をお願いします。

事務局

スリーブ状に当館所蔵の美術作品を印刷したものが65枚、これが6セット入っています。それと、先生が使うのに困らないように作成した、ティーチャーズガイド、これは27年度に研究会を発足しその中での意見を基に作成しました。載せている作品の解説、カードの遊び方、盛り上がる使い方のヒントを載せた説明書を一箱にしたものをお渡ししています。小中学校、高等学校、特別支援学校すべてにお配りしています；

6セットでは足りないという学校もありますので、25年度にプロトタイプとして作成した100箱を貸出用に使用しており、平成27年度は、ほぼ全て貸し出し中の状況でした。幼稚園、保育園から使いたいという要望もあり、そちらへの貸出にも使っています。

売って欲しいという声もある反面、どう使ったらいいか分からないと言う声もあり28年度はそんな先生に向けた研修会を開催してきました。

A委員

昨年の「樹をめぐる物語」の展示会を見ました。大変興味はあったのですが、一般人の私としては有名な絵がない、これといった目玉がない印象で、これで1000円は高いと思いました。しかし、数日後に山日新聞に、学芸員の解説が載ってしまして、

とても興味深い面白い説明でした。これで1000円になったと思いましたが、来館者はギャラリートークに参加できない人がほとんどですから、ギャラリートークと同様の解説資料がいただければありがたいと思いました。

事務局

「樹をめぐる物語」は多くの作家の作品を展示しましたが、作家の説明が多く、作品の説明が少ないということが学芸の中でも反省点としてでていました。展覧会では作品そのものよりキャプションの方を読んでいる時間の方が長いという調査結果もあるようですが、かつては、題名も解説も一切付けない、作品だけ見ていただくと言った風潮もありましたが、やはり説明がないと分からないと言うことがありますので、そのようなものを今後用意したいと考えています。よく、子供向けの解説が実は噛み砕いていて、大人にもよく分かるといった意見があります。、展覧会の性質にもよりますが、分かりやすい説明に務めていきたいと思います。

会長

その他に意見等はあるでしょうか。本日は貴重な意見をありがとうございました。今後も美術館がますます良くなるよう、私たちも協力していきたいと思います。では、これにて議事を終了します。